

小児・障がい児（者）リハビリテーション専門研修（岐阜県委託事業）報告書

日 時：令和 6 年 1 月 27 日（土）13：00～17：20

28 日（日）9：00～12：10

形式：ハイブリッド開催(対面&オンライン)

場 所：岐阜県総合医療センター 講堂

テーマ：岐阜県における重症心身障がい児者の実態と支援策等について

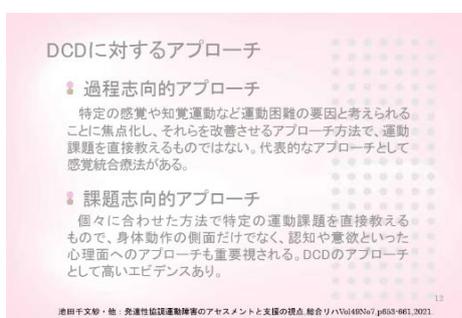
講 師：臼田祐二様（岐阜県健康福祉部医療福祉連携推進課 障がい児者医療推進係）

テーマ：発達症に対する理学療法なんてあるのかなあ？ ～みんなで一緒に考えよう～

こどもの運動療法と環境設定

講 師：辻清張先生（福井県総合福祉相談所 障がい者支援課 理学療法士）

参加者：74人(対面30名・オンライン44名)



今年度からは実技を交えることから、初めて対面と Zoom 併用での開催となり、昨年同様にたくさんの方に参加して頂きました。

臼田様からは岐阜県における小児・障がい児者の現状や取り組みについてご講演いただきました。岐阜県における医療的ケア児のなかで医療依存度の高い人は 20 歳未満に多いとの報告を受けました。また県の施策として小児・障がい児者に関わる制度や人材育成のためにガイドブックの作成や研修制度を実施しているので、質が高まることを期待します。

辻先生からは、初日はタオルを使った感覚遊びや言葉の聞き分けなどの実技を行った後に発達性協調運動障害（DCD）の概念や特徴について神経生理を交えた話の中でアプローチ方法について、言葉かけや様々な感覚入力、動機付けの大切さについて講義をして頂きました。

2 日目はこどもの姿勢と環境適応で、皮膚からの感覚入力のメカニズムやポジショニングにおける素材と体圧分散についてデータを用い、背臥位や腹臥位の姿勢管理について講義の後、実技においてはストレッチや姿勢分析、皮膚からの感覚入力について行い、呼吸法や体重移動など簡単な方法で筋緊張は変わるということを学ぶことができました。

辻先生の講義は長年の経験をもとにユーモアを交えて分かりやすく楽しかったと思います。これをきっかけにたくさんのセラピストが小児に関わり、また先生の講義がありましたら積極的に参加していただきたいと思います。

こども福祉部 木野裕成